

# 頑張れ店長

## 新人時代振り返れば

4月は多くのホールが新入社員を迎えます。これからの業界を担う人材として育ててほしいものですが、その初々しい姿を見て、百戦錬磨の店長さんも、かつて自分も新人だった頃を思い出すのではないのでしょうか。そういうわけで、各地の店長さんたちに新人時代を振り返ってもらいました。

### とんだ失敗の繰り返し

「新人の頃はいろいろな失敗しました。床に積んだ玉箱をひっくり返す、玉詰まりを直そうとしたら補給パイプが抜けて玉をまき散らす、酔ったお客さんに殴られる…上司からは『殴られるお前のほうが悪い』と叱られました。一通りの失敗やトラブルを経験したせいか、なぜか2年目にはクレーム担当を命じられ、ひたすら謝ったり、時には強く出たりして鍛えられました。毎年、新入社員の歓迎会でそんな話をすると、彼らの緊張がほぐれるようです」(関東・A店長)

新人時代は赤面ものの失敗がつきもの。それを肥やしにして育てて一人前になるのです

### プーターローだった私は

「私は学校を中退した後、プーターロー(失業者)をやっていた。パチンコで生活費を稼いでいました。その頃、行きつけのホールの店長さんに『将来のことを考えているのか?』とありえずうちの店で働いてみないか』と声をかけられ、アルバイトを始めたのがこの業界に入ったきっかけでした。それはそれは厳しく鍛えられましたが、その店長さんが会社とケンカして辞めたので、今の会社に移り、10年ほどで店長になることができました。あの店長さんがハンパ者の私に声をかけてくれなかったら、どんな人生を送っていたのだろうかと思えることがあります」(中部・B店長)

この業界には、さまざまな人を受け入れる度量の深さがあるようです。自らがそうだったので、B

店長はダメな部下ほど目をかけて鍛え上げるそうです。

### 仕事は見て覚えた

「私が入社した当時は古い体質が残っていて、私も新人時代にはミスをする先輩から手厳しく叱られ、ろくに仕事を与えられませんでした。仕事を教えてくれないのなら見て覚えようと、フロア周りで接客をしながら、同僚スタッフがどこで何をやっているかを見ながら仕事を覚えられました。それで何とか一人前に仕事をこなせるようになり、先輩もようやく認めてくれたのです。

今は新入社員用のマニュアルが整備され、評価基準も設けられて、誰もが水準をクリアできるようになりましたが、自分の才覚を発揮する機会が減り、何となく物足りなさを感じています」(中国・C店長)

次も似たような経験をされた店長さんの回顧談です。

### あの先輩がさりげなく

「私が入社したのは十数年前で、

## 店長からの投書

首都直下地震では「震度7」の可能性が有るそうです。

東日本大震災のときは、遊技機の電源を止めて、

お客様に店外避難を促しましたが、一部のお客様は遊技

台から離れようとしませんでした。揺れが落ち着いてから、戻

ってきたお客様を含めて持ち玉を計数して景品と交換して事なきを

得ました。今後、もっと大きな地震が起こったときは、建物が倒壊しない

いまでも、天井裏の補給パイプが破損して大量の玉が落下したり、近所で火

災が発生することも予測され

ます。お客様が遊技台を離れ

ないのは持ち玉を放棄したくない

からでしょう。そこでプレイ

中のお客様に迅速に避難して

いただくため、台番号を記入した

「遊技証明書」をお渡しして、

後日来店していただき、持ち玉を清算することにしています。(関東・店長)

## 大地震にそなえ「遊技証明書」渡し 後日清算の制度

同期は20人いましたが、1年でその半分が辞め、2年たつと3分の1に減っていました。それほど厳しい現場でした。私が辞めなかったのは、配属された店の先輩が、手取り足取り仕事を教えてくれて、何かあると私をかばってくれたからです。たとえば、私が接客トラブルで困っていると、先輩がさりげなく引き取って、うまく処理してくれるのです。親身に

## 「租税回避」と国税庁が指摘した事件 「企業組織再編税制」を利用したが 法人税法132条を使い「否認できる」

約40のホール企業グループが1000億円の「租税回避」を国税庁から指摘されたことが2月上旬にマスコミで報じられました。共通しているのは、企業の合併や分割を円滑に進めるために平成13年に導入された「企業組織再編税制」を利用していることです。

この制度は、不動産などを100%子会社に現物出資する際、簿価のまま不動産の所有権を子会社に移し、親会社に時価との差額の損益を発生させない規定を盛り込んでいます。今回指摘されたのは、たとえば簿価10億円、時価では5億円の不動産を新たに設立した子会社Aに現物出資する一方、親会社は子会社Aの株式を取得します。子会社Aの資産は時価5億円の不動産なので、株式の評価額は5億円となり、現物出資した不動産の簿価10億円との差額5億円を損金として計上して税額を減少できます。

実際は子会社をいくつも設立して、親会社は子会社Aの株式を子会社Bに現物出資する見返りに子会社Bの株式を取得し、その株式を子会社Bに現物出資して……という具合に繰り返し、含み損を抱えた子会社をグループの黒字企業に合併するなどしていたようです。こうした手法は東京都内の元税理士が指南していたとされています。

税制というのは、税法の条文のうえでは認められていても、租税回避行為に当たると見なされると、法人税法132条「法人の行為又は計算で、これを容認した場合には法人税の負担を不当に減少させる結果となると認められるものがあるときは、その行為又は計算にかかわらず、税務署長の認めるところにより、その法人に係る法人税の課税標準若しくは欠損金額又は法人税の額を計算することができる」として否認されるのです。今回もその事例と思われる。

ホール業界はこれまでも「脱税ナンバーワン」など報道され、パッシングの材料となりました。節税は大いに結構ですが、正々堂々と主張できる方法で行ってください。

(監修・日遊協顧問弁護士 堤義成、同 岩本康博)

なつて面倒をみてくれる先輩のおかげで、辞めずに頑張れたし、同期で最初に店長になれました。今は部下にその先輩の話をして、新入社員に対しては、たんに仕事を教えるだけでなく、人を育てるといふ姿勢で接するように指導しています」(中部・D店長)

「私が入社した頃は、採用内定を家族の反対で辞退多く」

「昔は家族の理解を得るために、採用担当者が親御さんのところに挨拶に回っていたそうです。時代

得たのに、家族の反対で辞退するケースがけっこうありました。今は入社辞退ということはありません。聞き直しました。パチンコ業界が社会的に認知されたためか、それとも就職が厳しくなつて選り好みしていらなくなつたせいなのかわかりませんが、採用担当は喜んで

「最近の新人社員は、素直でお行儀がよいと言われています。私が入社した20年近く前は、ひと癖もふた癖もあるのが多くて、導入研修で雲隠れしたり、講師に議論をふっかけたりして、会社は手を焼いていたようです。そんな連中も社会経験が、最近の若者は自分が傷つかな

いように、素直なポーズという殻

をまとっているのかもしれない。その殻を破って本音を引き出してやるのが、私たち人生の先輩の役割かもしれないと思つて、若い部下に接しています」(中部・F店長)

「若者には仕事を通して、もっと大事な人間教育が必要だとF店長は言います。」

### スタッフを観察して入社

「私はもともと事務機の営業マンでしたが、仕事帰りに入ったホールでスタッフが生き生き働いているのを見て、自分がやっている仕事がつまらなく思えて、転職することにしました。中途採用しているホール企業を探して、応募する前にホールへ足を運んでスタッフを観察し、今の会社に決めました。生き生きと働ける職場で働きたかったからです。」(関東・G店長)

「営業マンは個人成績が一目瞭然なので同僚はみなライバルになり、そのため孤独な仕事なのだ」とG店長は解説します。だからスタッフ同士が助け合うホールの仕事に惹かれたと言います。

「新入社員を迎え、自分が右も左もわからなかつた新人時代を振り返ることで、新たな気分を仕事に取り組んでください。」